授業態度等も教材にすると、授業するのが楽しくなるよ！

２００名近い学生の教壇に立つ友からのメールの中に、「授業態度には、いつも悩まされます。」の一文が…。

次のように返信した。
【　自分にも１５０名強の授業がありますが、そう苦になりませんし、どの学校でも人数に関係なく、最初の授業日の最初に次のように話しています。

「与えられる知識は応用が効かない。求める知識は知恵をなる。」と板書し、居眠りも脳の機能からいって、「無理に起こしてもねむけ眼で聞いても頭に入らないから、５分位、いびきをかかずに寝ていいよ！
但し、単位成績は、自分の授業態度故の自己責任だからね！」と宣告します。

また、「周りの授業を聞こうとする学生の気持ちを気遣い出来ないようでは、相手の心を気遣い、心を読み取ろうとするプロになれるはずがない。私語だけは避ける事！
日頃からこうした生きよう（様）に努めないと、人の心を気遣うプロになれないよ！」とも付け加えます。
ですから、その後の授業日でも殆ど私語する学生はいません。
それでも、私語し出す学生がいたら、ヒタッと授業を止めます。
そして、「あなた（君）は、それで人の心を気遣うプロになれると思っているの？」と、皮肉っぽく聞きます。
先日も発達障害がテーマの授業でしたので、私語し出した学生に、「授業に集中できない注意欠陥多動性障害があると云われたらどうする？」と問いかけます。

更に、「今のネット時代、教える知識以上の情報は手に入るだろうから、授業では知識を教えない。考える材料を提供するだけ！」と云います。
学生の授業態度や最近の報道事件等でも直ぐにその専門職と結びつけて解説し、各自に思考するヒントを提供し問いかけているだけで、知識を教えるより、こうした問いかけの方が自分の得意業かもね(^o^)

また、「板書をノートに写し書きしても、何の力にもならない。大事と思うことは、自らノートを取る努力を自らに課すこと！　だから、板書はキーワードしかしないからね！」とも話します。

こんな調子の授業ですので、学生の授業態度に悩むことは殆どありません。　】

「教育に必要なのは、『子どもを見つめる能力、成長を待てる能力』。待てる力があるのは、親と教師だけ。」という言葉がありますが、授業態度でも双方向性に心懸け、学生の中で育まれるのを待つ忍耐力は持ち合わせている、つ・も・り・！

阿部幸泰　（2007 年 1 月 15 日　記）